

輝け！シン尾花沢中

第 1 1 7 号

令和 7 年

10 月 31 日

心ゆたかに たくましく 理想をうたう わが学園

尾花沢を盛り上げ隊！①～第 2 回絆リレーマラソン交流大会～

10 月 26 日（日）、尾花沢市運動公園で第 2 回絆リレーマラソン交流大会が開催され「伊藤家秋保家」「Blue sprint」チームの一員として尾中生が出場しました。

「つながる笑顔」「広がる元気」をキーワードに、地域の活性化を図って行われた本大会。小雨の降りしき中 12 チーム、約 100 名がたすきをつなぎ、100 分間で走った距離を競い合いました。以下、尾中生の声を紹介します。

伊藤 颯^{はやて}さん（1 年）：僕は、もっとみんなと絆を深めたいと思い、この大会に出場しました。雨が降っていて寒い中でしたが、完走することができて、仲間とより絆を深めることができました。小学 1 年生から大人の方まで、幅広い年代の方が参加し、共に励まし合い頑張っていました。最後には「楽しかった」や「がんばった」などの言葉が聞こえていてよかったです。地域が明るく元気になる大会で、来年も参加しようと思いました。

渡辺 心優^{こころ}さん（1 年）：去年も参加して地域の人たちを元気にすることができたことがうれしくて、去年よりももっと元気にしたい、という想いで参加しました。当日は、みんなと協力し合いサポートし合いながら参加することができました。地域の人々からの応援があったからこそ、たすきをつないで完走することができたのでうれしかったです。他にも、ティラノサウルスの着ぐるみを着て走る競技にも参加して、地域の人たちから「かわいい」「おもしろい」などの言葉をもらったことがうれしかったです。地域の人たちの笑顔を見ることができて、元気を与えることができたと思うし、自分も元気を与えられ、参加してよかったです。

青木 希龍^{きりゅう}さん（1 年）：僕は、絆リレーマラソンで仲間と 100 分間共にタスキをつなぐことができてとてもよかったと思いました。ただ、走る前にあんなに元気だったのに、走った後にあまりにも疲れすぎてびっくりしました。絆リレーマラソンに参加して、練習が足りないことが分かったので、来年の地区中学校総合体育大会に向けて、もっと頑張りたいと思いました。楽しかったです！！

次号では、3 年生 5 名の声を紹介します。

【文責：校長 工藤雅史】



出場した 9 名の尾中生

障害者無間わず
チームで力発揮
尾花沢
絆リレーマラソン
世代を超え障害の有無にかかわらずチームを組み、たすきをつなぐ絆リレーマラソン交流大会が26日、尾花沢市運動公園で開催され、参加者が力を合わせて快走した。写真員、尾花沢ジュニアスリークラブと大石JSCでつくる実行委員会が昨年同様、企画した。リレーマラソン部は1チーム5人から編成し、100分間の合計距離など競うルール。1人で走る距離や回数に制限を設けず、各選手が無理なく、持てる力を発揮



できるようにした。この日は尾花沢、大田両市町から12チームがエントリーした。小雨が降る中、小学1年生から40代までの計約100人が、仲間と絆を深め、たすきをつなぐ。保護者から盛んな声援が送られた。伴走者と一緒に走った吉田のあんず、ツッパジ担任、伊藤美穂さん（27）は「風を感じて、たすきをつないで、たくさん応援を受けて走ると、痛根、駆けの選手みたい」と爽快に笑った。ほかにウオーキング部門や恐竜の着ぐるみを着て走るティラノサウルスレースもあり会場を盛り上げた。（木村敏郎）

2025.10.28 山形新聞